
課題の整理について

■第9期計画に向けた課題についてのご意見・ご提案

課題1	<p>★認知症施策の更なる推進</p> <p>アンケート調査において、在宅介護者が最も不安に感じているのは「認知症状への対応」という結果が出ています。認知症高齢者の増加が予測される中、認知症の発症を遅らせ、認知症になっても希望を持って日常生活を過ごせる社会を目指し、認知症があってもなくても同じ社会でともに生きる「共生」と、認知症にならないという意味ではなく、認知症になるのを遅らせる「予防」を車の両輪として推進する必要があります。</p>
課題2	<p>★フレイル対策</p> <p>高齢者の保健事業と介護予防を一体的に実施し、フレイルを把握した上で、適切な医療サービス等につなげることが高齢者の疾病予防、重症化予防の促進に重要であり、医療・介護が連携したフレイルの多面性に応じた総合的な対策の検討が必要です。また、高齢者だけでなく、子や孫世代においてもフレイル対策について啓発し、多世代でのフレイル対策を推進する必要があります。</p>
課題3	<p>★通いの場の充実</p> <p>高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らし続けるためには、地域でともに支え合う人材の確保・育成が重要となります。本市では、「地域お茶の間創造事業」などにより住民による取組を進めていますが、新型コロナウイルス感染症による通いの場の休止で参加者やボランティアに影響を及ぼしました。この通いの場の休止による影響の対策とともに本事業の見直しを図り、更なる多様な通いの場の創設と利用促進に努める必要があります。</p>
課題4	<p>★複合的な課題への包括的相談・支援</p> <p>地域の福祉課題は、一つの分野だけでなく、8050問題、ヤングケアラーなど複合化、複雑化しています。本市では、令和3年度から従来の支援体制では解決できないケースについて、各機関が集まって、それぞれが連携して対応する重層的支援体制整備事業に取り組んでおります。総合相談を一つにすることで、様々なケースを各窓口につなぎ、総合的なサービスを提供しておりますが、更なる相談体制の充実を図る必要があります。</p>
課題5	<p>★生活支援サービスの充実</p> <p>アンケート調査において、在宅生活の継続・充実に必要であるのは「移送サービス」という結果が出ています。ひとり暮らし、高齢者夫婦世帯が増加する中、運転免許証の返納による移動手段の喪失など、高齢者を取り巻く生活環境の変化に対応するためには、介護や医療のサービスだけでなく、様々な生活課題に対応した生活支援サービスの充実が必要です。</p>
課題6	<p>★災害や感染症対策の体制整備</p> <p>介護サービスは、利用者の方々やその家族の生活に欠かせないものであり、感染症や自然災害が発生した場合であっても、介護サービスが安定的・継続的に提供できる体制を構築することが重要です。必要なサービスを継続的に提供するためには、また、仮に一時中断した場合であっても早期の業務再開を図るためには、平時からの備えが大切ですので、体制整備の充実を図る必要があります。</p>
課題7	<p>★デジタル化の推進（デジタル・ディバイドの解消）</p> <p>高齢者は、情報弱者になりやすく、安全で安心して生活するための情報を得にくい状況にあります。スマートフォン等の使用により、災害の迅速な情報収集や健康の取組みを促進することができ、また、ネットショッピング等の生活支援の選択肢を増やすことができます。デジタル環境の活用支援を行うことにより、デジタル・ディバイドの解消を目指す必要があります。</p>

第9期計画に向けた課題についてのご意見・ご提案

<介護保険運営協議会委員>

課題1	<p>★認知症施策の更なる推進</p> <p>アンケート調査において、在宅介護者が最も不安に感じているのは「認知症状への対応」という結果が出ています。認知症高齢者の増加が予測される中、認知症の発症を遅らせ、認知症になっても希望を持って日常生活を過ごせる社会を目指し、認知症があってもなくても同じ社会でともに生きる「共生」と、認知症にならないという意味ではなく、認知症になるのを遅らせる「予防」を車の両輪として推進する必要があります。</p>
<p>認知症の発症は脳への刺激不足が起因となることが多いので、市の予防事業の機会はとても貴重と思われます。更に参加したく（日常生活に密着した興味を示される内容）なるようアンケートをとってみたいかどうか（ex. 簡単にできる料理教室「男性可」）。まずは社会参加、他者との関わりによる生活のメリハリが大切なので、その機会の確保を（この機会の中で異変にも気づける）。</p>	
<p>米原学びあいステーションでは、平成28年から8年に渡り、認知症予防をテーマに米原市の関係機関やいろいろな方に協力をしていただきながら講座を行ってまいりました。参加者から「介護や認知症などで家族に迷惑をかけたくない」「できるだけ元気に老後を過ごしていきたい」などの声を聞きます。また、学びあいステーションは人が集う場であり、きっかけや場を提供することで人と人とのコミュニケーションが図れ、講座を通じてご本人の悩み、地域の人で気になることなどの相談で関係機関に介入していただいた経緯もあります。これからもこの講座に取り組んでいこうと思いますが、専門機関からの協力や情報提供などもお願いしたい。</p>	
<p>難しい問題だと思います。年齢を重ねるごとに、一般に体力、知力、気力の衰えが生じてくると思われる。また、家族に認知症を疑われる症状が見られてもなかなか受診までにつながらない。家族も「大丈夫だよ」「年齢からくる老化でしょう」「まだしっかりしているよ」など認めたがらず、また本人も「もの忘れすることが多くなった。ぼけてきたのかな」と思っても、認知症まで考えない。認知症について話を聞くことはあっても、自分もいつかはとして聴いていないため、なかなか理解できない。また、認知症について近所の人と話す機会はあっても、自分、知人、近所の人がなるという想定はないので、うまく言い訳をしてごまかし症状がひどくならないと受診しない。家族以外の人と話す機会を作るにしても地域のサロン等世話役の方の負担になると月何回も開けず、高齢者の居場所がない。身体を動かすことも体調、天候など理由をつけて続かない。本人の意識改革を待っている状態が続いているように思う。認知症予防のための講座より「こんな症状が出始めたら受診しましょう。早めの受診は貴方のお守りです」みたいな啓発はできないのか。また、健康診断の時、簡単な認知症検査を組み合わせることはできないのか。結果については家族のおられるときに一緒に話す（認知症の疑いがある方のみ）。認知症予防講座やサロンに参加されない方の方に問題がある。</p>	
<p>第8期計画では、認知症を予防するという視点がなかったように思います。2025年には、65歳以上の高齢者のうち5人に1人が認知症になるという推計が報告されています。加齢による「もの忘れ」と「認知症」は異なるというものの、ふとしたもの忘れでも、自分は5人の中の1人に入ったのではないかと気になります。英国の研究によると、30年間の運動の状況と70歳頃の認知機能を調べたところ、若い頃から運動を続けてきた人が最も認知機能が高く、50、60代から運動を始めた人も全く運動をしてこなかった人よりも高かったということが報告されているそうです。これは、いつから運動を始めても認知症予防の効果が期待できるということであ</p>	

り、米原市においてもニュースポーやシニアスポーツの環境を整えるとともに、認知症予防の施策の1つに位置付ける必要があるのではないかと考えます。

【課題1・課題2】7月号として「もしも認知症になったら」が掲載されていた。もしもの時どこへ相談すれば良いのか理解できて良かったと思う。自分が10年前に大病をしてから、毎月かかりつけ医を受診し、そこで市の特定健診、胃カメラ、血液検査、エコーなど定期的に検査していただき安心して居られる。今後、マイナンバーカード、デジタル等活用で種々の機関が連携してフレイル予防から認知症予防、早期発見、健康寿命が延ばせる仕組みができればと思う。

課題2

★フレイル対策

高齢者の保健事業と介護予防を一体的に実施し、フレイルを把握した上で、適切な医療サービス等につなげることが高齢者の疾病予防、重症化予防の促進に重要であり、医療・介護が連携したフレイルの多面性に応じた総合的な対策の検討が必要です。また、高齢者だけでなく、子や孫世代においてもフレイル対策について啓発し、多世代でのフレイル対策を推進する必要があります。

米原市がフレイルの予防や啓発に力を入れておられることは、大変良いことだと思います。フレイルの予防や進展防止のためには、各個人の地道な努力も必要であり、アンケートなどで対象に指定された方々が、運動などをどれだけ継続してくれるかが重要でしょう。筑波大との共同研究で「なわとび体操が有効」とのことですが、1回20分では個人で継続できる人は少ないと思います。であれば、米原市の展開する「地域お茶の間創造事業」を中核に据え、人々が気楽に集える環境を充実させる方向が良いのだろうと思います。

課題3

★通いの場の充実

高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らし続けるためには、地域でともに支え合う人材の確保・育成が重要となります。本市では、「地域お茶の間創造事業」などにより住民による取組を進めていますが、新型コロナウイルス感染症による通いの場の休止で参加者やボランティアに影響を及ぼしました。この通いの場の休止による影響の対策とともに本事業の見直しを図り、更なる多様な通いの場の創設と利用促進に努める必要があります。

地域では老人会の消滅や、婦人会、子ども会さえなくなってきました。コロナが流行ってからは、区の行事も縮小化され、今やお茶の間の居場所だけが気軽に集える場となりました。感染対策に気を配りながらもボランティアスタッフはがんばっています。「認知症になっても、介護が必要になっても楽しいことをあきらめない」と様々な内容を工夫して充実させていきたいです。このことは課題1や2を推進していくことにつながっています。

各地域ごと、住みなれた地域での「地域お茶の間創造事業」の取り組みは、運営するボランティア、参加を楽しみに集う地域の方、通いの場の充実はとても大切だと思いますが、コロナの影響で活動が休止になってしまったことは残念です。しかし、考え方を換え、コロナがあったからこそ、その時間を活用して通信ではありますが資格を取って、地域で活かそうとする方もいます。自治会の中の活動で終わらず、この地域にある当施設でボランティア活動をしたいと申し出があり、この方を中心に平均年齢82歳の自治会サークルの方が中心になり、歌ごえのボランティア活動を今年度4月よりスタートさせました。場所と広報は当施設が担当し、運営はボランティアの会。米原市内外からの参加があり、歌を通じて交流が生まれています。そうした施設の活用もしてほしいです。

課題4	<p>★複合的な課題への包括的相談・支援</p> <p>地域の福祉課題は、一つの分野だけでなく、8050 問題、ヤングケアラーなど複合化、複雑化しています。本市では、令和3年度から従来の支援体制では解決できないケースについて、各機関が集まって、それぞれが連携して対応する重層的支援体制整備事業に取り組んでおります。一つの総合相談で実施することで、様々なケースをそれぞれの窓口につなぎ、総合的なサービスを提供しており、相談体制の充実を図る必要があります。</p>
<p>様々な課題がある中で、老々介護、独居の方で介護認定すら受けずに自力で生活をされている方もおられると思います。介護保険料は納められているので、既存の介護サービスの範囲外で必要とされている支援はないか。生活環境→不要物（粗大）の支援等、何のサービスとのつながりもなく、相談する人もいない方がおられると思います。</p>	

課題5	<p>★生活支援サービスの充実</p> <p>アンケート調査において、在宅生活の継続・充実に必要であるのは「移送サービス」という結果が出ています。ひとり暮らし、高齢者夫婦世帯が増加する中、運転免許証の返納による移動手段の喪失など、高齢者を取り巻く生活環境の変化は、介護や医療のサービスだけでなく、様々な生活課題に対応した生活支援サービスの充実が必要です。</p>
<p>日常生活の不便さが生じても高齢者による車の事故を予防すべく、免許証を返納される方が増えていると思います。買い物の不便さの解消として、地元スーパー、商店との配達システムがあったり、移動販売業者の自治会館等への定期的訪問販売等があると助かるのではないかと。病院等への移動手段は必須なので、行き先・目的を受診とした送迎事業があると良い（社協、介護タクシー）。</p>	
<p>現在、お茶の間創造事業の地域支援サービスに取り組んでいますが、利用は「移送、つきそいサービス」がほとんどです。しかし、生活の中では他にも様々なことへの助けが必要になっています。ところが、支援する側も高齢者なので、できることには限りがあります。民間のサービスも手の届くところに豊富にあるとよいのですが・・・。</p>	
<p>現在、私ごとですが、他市に住む一人暮らしの伯父の面倒をみています。2年前に手術をしたことがきっかけとなり、介護サービスのお世話になっています。伯父をきっかけにいつも思うことは、生活において買い物が不自由なこと。できるだけ自分の力で生活をし、できない部分を少し助けてほしいという思いをもって生活をしています。今は要支援1で週に1度デイサービスに通い、多くの薬を飲んでいることから、飲みまちがえないように週に1度訪問で薬のチェックなどしていただいたり、すごく助かっています。いろいろな支援をいただいておりますが、食については一番不自由があり、近隣に買い物をする場もないので移動販売などがあれば助かります。しかし、個人の家に一軒一軒まわるのは大変なことなので、デイサービスに行っていることを活用し、その場で買い物ができるシステムなどあればとても助かるのにと感じていました。コンビニや各お店がチラシを見てその中から商品を配達してくれるサービスは知っていますが、やはり自分の目で実物を見ることは脳に良いし、自分で食材をみて自分で食事のメニューを考えるなど、デイサービスに行く楽しみも増えると思います。非現実的かもしれませんが、伯父をみていて思うことです。高齢者だけではなく、これから高齢者になっていく世代にとっても、住み慣れた地域で自分でできる限りいきいきと元気に暮らしたいという願いは同じです。少しでも学びあいステーションのような地域にある施設が、生きがいとなる人と人をつなげるきっかけづくりができればと考えています。</p>	

<p>高齢者の運転免許返納が推進されているが、高齢者だけの所帯が増え、また子どもと同居でも昼間は高齢者だけという家庭も多いのではないかと。病院に行きたい、買い物がしたい、メガネや補聴器の調子が悪いなど日々の生活の中でいろんな問題が起きてきても、すぐに対処できない。子どもの休みの日まで待たなければならない。まいちゃん号を利用しては行きは良いが帰りの時間が決まらないので、タクシーで帰ってくる。主人が運転していた時は自由に出かけられたが、免許返納してから買い物にもなかなか出かけられない（高齢の女性が運転免許証をもっておられるのは少ないのでは）など聴く。足腰が弱って歩行が困難になってきたり、視力、聴力の低下により電話予約が難しくなってきた方のために良い支援方法はないのか。交通の便が悪い地域で運転免許証を返納した高齢者（認知症の方も含む）が気軽に利用でき、外出を楽しむことができればよい。健康であれば介護サービスを利用する必要がない。</p>
<p>移送サービスの重要性については同感です。特に医療者としての立場からは、米原市内に総合病院がないため、通院費用が高額になってしまう点が気になります。まいちゃん号利用の際、少なくとも市立長浜病院・赤十字病院・彦根市立病院の3か所について、特定料金の適応（割引）ができないでしょうか。</p>
<p>○高齢者の外出を支援するために地域で共に支え合い、助け合いによる移動支援に取り組む団体の設立や活動を支援する。 ○住み慣れた地域で安心して暮らせるために買い物や通院等、日々の生活の中で移動する交通手段として、買い物支援タクシー、生活支援タクシー等の充実を図る。</p>
<p>ケアマネジャーとして従事しているなかで、高齢ドライバーの方を担当することがあります。周りから心配され、本人も「危ないかも・・・」と自覚はあるものの運転をやめると買い物や通院ができなくなる。タクシーは高い、まいちゃん号はややこしい、ホームサポート（買い物）も使いこなせるかわからない、配食弁当は味気ない、などの問題で運転を続けておられる方があります。使いやすく安価な移送サービスがあれば、このような方は免許の返納がしやすくなるかと思えます。しかしその分、多くの方が利用されると経費がかかってしまうので難しさもあるかとは思います。</p>

<p>課題6</p>	<p>★災害や感染症対策の体制整備 介護サービスは、利用者の方々やその家族の生活に欠かせないものであり、感染症や自然災害が発生した場合であっても、介護サービスが安定的・継続的に提供できる体制を構築することが重要です。必要なサービスを継続的に提供するためには、また、仮に一時中断した場合であっても早期の業務再開を図るためには、平時からの備えが大切ですので、体制整備の充実を図る必要があります。</p>
<p>なし</p>	

課題7	<p>★デジタル化の推進（デジタル・ディバイドの解消）</p> <p>高齢者は、情報弱者になりやすく、安全で安心して生活するための情報を得にくい状況にあります。スマートフォン等の使用により、災害の迅速な情報収集や健康の取組みを促進することができ、また、ネットショッピング等の生活支援の選択肢を増やすことができます。デジタル環境の活用支援を行うことにより、デジタル・ディバイドの解消を目指す必要があります。</p>
<p>すべてのことがデジタル化してきており、個々では対応できず大切な情報から置き去りにされている人が多い予防事業の中で、スマートフォンの使い方講座や見守りのもと、ネット販売を安心してできる機会があると心強いと思います。スマホを持っておられない方もおられるので、そのような方へのフォローも不可欠と思われます。</p>	
<p>デジタル支援は、今後ますます重要。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナワクチン申し込み時に痛感しました。スマホを持たない人への対応で、自治会の間でも格差がありました。 ・使用範囲を限定し、手軽に入手できる様に。 ・実際にインターネットにふれ、その便利さや必要性が実感でき、身近で教えてくれ、相談できる場所が必要。 ・高齢者でもスマホを使いこなしている人も多い。支援する側として活動してもらえれば良い。 	
<p>前期高齢者は、これから推進していくことは有効かも知れませんが、後期高齢者になってくると視力、反射能力などの衰えにより、スマートフォンの操作も困難になって来る人が多いと思います。また、変なサイトに入ってしまうなどのトラブルも心配されます。デジタル化活用も大事ですが、対面や電話などでの親切、丁寧な対応が一番望まれるのではないのでしょうか。</p>	
<p>高齢者といっても個人差はあるでしょうが、新しいことを覚えるのは苦手、という方も多いと思います。スマホやネットショッピングの習得を促すのも良いですが、地域訪問型サービス事業の充実などにより、「デジタルに頼らなくても生活できる環境」を維持するほうが、高齢者にとってより優しいといえるのではないのでしょうか。国に逆らうのもなかなか難しいとは思いますが、「(高齢者が) デジタルに対応できなくても困らない町づくり」をできないものでしょうか。</p>	

<p>その他</p>	
<p>米原市は介護に関わる給付費が突出して高いですが、これは高齢化率も高いので当然だと思います。介護事業が充実していれば、若者家族は安心して働き、子育てもしやすいのではないのでしょうか。子育てだけに力を入れる、高齢福祉にだけお金を使いすぎる・・・このような考えではなく、皆が暮らしやすい米原市であるよう望みます。</p>	

第9期計画に向けた課題についてのご意見・ご提案

<地域包括支援センター運営協議会委員>

課題1	<p>★認知症施策の更なる推進</p> <p>アンケート調査において、在宅介護者が最も不安に感じているのは「認知症状への対応」という結果が出ています。認知症高齢者の増加が予測される中、認知症の発症を遅らせ、認知症になっても希望を持って日常生活を過ごせる社会を目指し、認知症があってもなくても同じ社会でともに生きる「共生」と、認知症にならないという意味ではなく、認知症になるのを遅らせる「予防」を車の両輪として推進する必要があります。</p>
<p>サロンスタッフの中にも認知が進んでいるのがわかる方がいる。本人へ病院を進めたがすぐに行ってもらえず2、3年経ってようやく病院かデイサービスに行ってくれたようだ。今は遅らせるお薬もあるようで早く行ってくださるといいのにと思っていた。認知になりかけの時、半分しっかりしておられる。なかなか行ってもらえない。そういうときどこに相談に行ったらいいのかわからない。</p>	

課題2	<p>★フレイル対策</p> <p>高齢者の保健事業と介護予防を一体的に実施し、フレイルを把握した上で、適切な医療サービス等につなげることが高齢者の疾病予防、重症化予防の促進に重要であり、医療・介護が連携したフレイルの多面性に応じた総合的な対策の検討が必要です。また、高齢者だけでなく、子や孫世代においてもフレイル対策について啓発し、多世代でのフレイル対策を推進する必要があります。</p>
<p>市からの委託でフレイル対策事業について協力をしている。ご紹介いただく人数は多いが、半数もしくは3分の2ぐらいの方はお断りをされる。市が思っているよりも本人たちはそこまで困っていない。生活の中でもよく動けていて、私たち健康なのになんでこういう事業があるとのいうお言葉がある。市と地域でギャップがあると感じる。ギャップを埋めるような対策が必要だと思う。</p>	
<p>要支援の方の問い合わせが多い。リハビリをしたい、入浴の支援をお願いできないかとの問い合わせが結構多い。要支援の方のリハビリの加算がないというところもあって、ほかの法人さんもお断りをされている話を聞く。そういったニーズがある中で何とかしてあげたいけれどもなかなか受け入れられない現状がある。リハビリに関しては自費でリハビリができてもいいかなと思うが、マンパワー的にもスペース的にも難しい。</p>	

課題3	<p>★通いの場の充実</p> <p>高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らし続けるためには、地域でともに支え合う人材の確保・育成が重要となります。本市では、「地域お茶の間創造事業」などにより住民による取組を進めていますが、新型コロナウイルス感染症による通いの場の休止で参加者やボランティアに影響を及ぼしました。この通いの場の休止による影響の対策とともに本事業の見直しを図り、更なる多様な通いの場の創設と利用促進に努める必要があります。</p>
<p>サロンの仲間を増やして行こうと取組をしているが全員が来てくれるわけではない。地域で見守り活動をしながらサロンを開催している。見守りネットワーク会議はサロンの終了後に行っている。情報共有することはすごく大事と思っていて、サロンだよりを月1回出し各世帯に配付している。</p>	

課題4	<p>★複合的な課題への包括的相談・支援</p> <p>地域の福祉課題は、一つの分野だけでなく、8050問題、ヤングケアラーなど複合化、複雑化しています。本市では、令和3年度から従来の支援体制では解決できないケースについて、各機関が集まって、それぞれが連携して対応する重層的支援体制整備事業に取り組んでおります。一つの総合相談で実施することで、様々なケースをそれぞれの窓口につなぎ、総合的なサービスを提供しており、相談体制の充実を図る必要があります。</p>
<p>今、地域共生社会で高齢者部門と障がい者部門、子育て部門を包括的に推進いただいて、横の連携も大変大事ですし、連携すると言うのは難しいと思っている。相手が分からないとできない。今までにない課題も出て来ている。行政と一緒にやる重層的支援体制にも市は県下で一番取り組んでいると思う。行政と包括が一緒になって取り組んでいる。特に高齢者社会には大切ななと思った。</p>	
<p>調剤に特化した部分でご家族さんや本人さんに関わる仕事についている。10年間やっている中で感じるのが、一世帯あたりの家族数が減ってきているとのことでしたが、その中で介護者の負担は増えてきている。最近特に思うのが、親御さんと独身のお子さんが一人で介護されている。そのお子さんも還暦を過ぎていて介護力も認知力も落ちてきている。社会的にも体力的にも経済的にも介護が難しくなって来ているケースが増えてきていると思う。</p>	
<p>最近は困った家庭から依頼が入ってくることが多い。経済的な問題も第一にあるが、介護すべき人がすでに支援がいるというか、どうにもならない状況でいきなり何とかしてくれみたいな感じで入ってくる。最近は特に増えてきていて、在宅医療の用語ではあまり良くない言葉ですが、複合困難家族という言い方をする。そういうものに対する支援は、支援センターだけでは無理かもしれない。いろんな全体的なバックアップが必要でないかと感じている。</p>	

課題5	<p>★生活支援サービスの充実</p> <p>アンケート調査において、在宅生活の継続・充実に必要であるのは「移送サービス」という結果が出ています。ひとり暮らし、高齢者夫婦世帯が増加する中、運転免許証の返納による移動手段の喪失など、高齢者を取り巻く生活環境の変化は、介護や医療のサービスだけでなく、様々な生活課題に対応した生活支援サービスの充実が必要です。</p>
<p>高齢ドライバーの方が運転免許証を返納したあと買い物どうしようとか通院どうしようとか、困っておられる方が多いと思う。運転は怖いと思うがなかなかやめられないという方を担当している。気を付けてくださいねとか、止めておいてくださいとは簡単に言えるが、そこから先、通販であったり、まいちゃん号を使うというのは、その方にとっては、今運転していることより正直難しいことなのかなと思っている。やめておいたらいいとは思いますが、今できていることを奪ってしまうので、どうやってあげればいいのか悩む。</p>	
<p>買い物支援事業はニーズがある。一人で買い物に行けないとか誰にも送ってもらえないという方はおられる。買い物をして楽しみたいとか、スーパーで季節感を味わう、旬の野菜の楽しみ方のためご利用いただくのは増えてきている印象がある。地域のニーズを受け皿としてやっていただける事業所が増えて来たらいいのかなと思う。</p>	
<p>免許返納で買い物に行けなくなった人が近所の人に買い物に連れて行ってと頼まれる。頼まれた人もしよっちゅう言われると困ってしまわれる。私が何か困りごとはないかと聞いても「何も困っていないと」答える。そういうことがあって地域での支え合いが大切と思うが、本人さんをどうしてあげたらいいのかなというのもあって、やはり地域で考えていく必要があると思っている。</p>	

課題6	<p>★災害や感染症対策の体制整備</p> <p>介護サービスは、利用者の方々やその家族の生活に欠かせないものであり、感染症や自然災害が発生した場合であっても、介護サービスが安定的・継続的に提供できる体制を構築することが重要です。必要なサービスを継続的に提供するためには、また、仮に一時中断した場合であっても早期の業務再開を図るためには、平時からの備えが大切ですので、体制整備の充実を図る必要があります。</p>
なし	

課題7	<p>★デジタル化の推進（デジタル・ディバイドの解消）</p> <p>高齢者は、情報弱者になりやすく、安全で安心して生活するための情報を得にくい状況にあります。スマートフォン等の使用により、災害の迅速な情報収集や健康の取組みを促進することができ、また、ネットショッピング等の生活支援の選択肢を増やすことができます。デジタル環境の活用支援を行うことにより、デジタル・ディバイドの解消を目指す必要があります。</p>
なし	